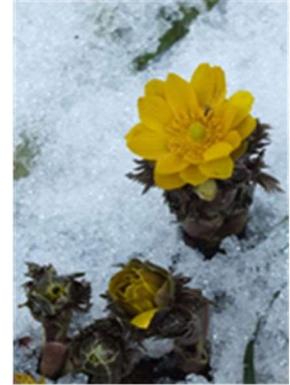


諏訪湖クラブニュース

NO. 39 2024年4月

もくじ

- 巻頭 あいさつ 沖野外輝夫
- 令和5年度諏訪湖クラブ活動記録
- 報告 令和5年度地域発元気づくり支援金事業の概要
- 地域発元気づくり支援金事業「諏訪湖に学ぶ」3ケ年計画
- 報告 湖沼水環境保全に関する自治体連携と諏訪湖創生ビジョン /井上祥一郎
- 報告 林正敏蔵・鳥類標本2,400点他を国立科学博物館に寄贈
- 報告 諏訪湖周サイクリングロードの橋梁整備
- 報告 県道岡谷茅野線の大型車規制始まる /八幡義雄
- 寄稿文「国民森林会議とわたし」/高木保夫
- 理事会議事録



巻頭所感

会長 沖野外輝夫

令和6年の元旦は能登地方の地震と羽田空港での航空機事故で始まり、今年の先行きに不安を感じさせる幕開けだった。しかし、その後は地球温暖化の傾向は例年通りではあっても、その後は大きな変化はなく、胸をなでおろす昨今でした。しかし、油断は禁物です、花の開花時期になった今日このころは何となく気象が定まらない日々が続いている気配を感じさせます。やはり地球全体の気象、水象に変化が起きていることは明らかで、その結果がどうなるかが現状では予測できない、ということかもしれません。

予測できない事々は自然現象だけでなく最近各地で起きている局地戦争もそうでしょう。人間どうしが始めたことだから、お互いの話し合いで事を納めることが出来そうに思えますが、そうは簡単に納められない、というのが現実です。およそ80年前の戦争と敗戦で懲りたはずの日本人も、平和国家を自称しながら具体的な働きかけを世界に実行することもなく、国内でもその先行きが怪しくなっている気配が濃厚です。では、今、地域でできることは何か、正解はないのかもしれませんが、考えないよりはましかと、黄砂の空を眺めています。



3月23日にも雪が降りました

令和5年度 諏訪湖クラブの活動記録

◆令和5年(2023)4月28日(金)

長野県地域発元気づくり支援金事業 「諏訪湖に学ぶ」諏訪湖クラブ 承認される
「諏訪湖に学ぶ」事業費 833,785 円 支援金 667,000 円

- (1) 冊子「諏訪湖の水生植物」 A4 カラー36 ページ 6,000 冊
- (2) 冊子「ウンチ君の旅」 A4 カラー16 ページ 5,000 冊
- (3) 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」 B4 カラー12 ページ 120 部
- (4) 冊子「諏訪湖の治水に繋がる釜口水門」 A4 カラー32 ページ 6,000 冊

◆令和5年(2023)6月4日(日)

午前 全国一斉水質調査 天竜川他
午後 2時30分～ 諏訪市駅前交流テラスすわチャオ会議室 3
諏訪湖クラブ定期総会開催

- ・出席者 17 名、委任状 36 名 正会員 82 名
- ・第 1 号～第 2 号 令和 4 年度関係 …承認
- ・第 3 号～第 5 号 令和 5 年度関係 …承認

記念講演 長崎 政直専務理事「フィリピンでの活動」
沖野 外輝夫会長「なぜ諏訪にくることになったか」



長野日報新聞掲載記事

◆令和5年(2023)7月12日(水) 諏訪中学校

3 学年の総合的な学習を実施
講師 沖野 外輝夫先生
諏訪湖について学ぶ

◆令和5年(2023)8月1日(火) 下水道展(札幌市札幌ドーム)

事例発表「市民科学」「うんち君の旅」水はどこから来て、どこへ行くの? 発表; 田代幸雄



下水道システムを説明



マンホールを覗き込む児童



最初沈殿池にて

◆令和5年(2023)9月12日(火) 10時から 下諏訪町役場 庁2階 町長応接室

紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」贈呈式

参加 下諏訪町宮坂町長、松崎教育長、
諏訪湖クラブ 会長 沖野 外輝夫、高木保夫、八幡義雄
絵手紙教室「福の会」会員 宮澤みち子、大和とし子、野村洋子

内容 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」 B4 サイズ 12 ページ
文・絵;林 正敏/ 企画;福の会/ 制作;諏訪湖クラブ/

作成 120 部 配付先;諏訪郡市保育園・幼稚園、諏訪郡市小学校、諏訪郡市図書館他

◆令和5年(2023)9月29日(金)午後1時～ 諏訪中学校体育館
第27回「梶の樹祭」で総合的な学習の成果を発表

- ・発表された五つの講座；(1)ゼロカーボンシティ講座 (2)諏訪湖講座 (3)報道講座 (4)温泉講座 (5)諏訪湖マラソン講座
- ・諏訪湖の浄化の取り組みにより、諏訪湖の水は改善方向にあることを報告。



諏訪湖についての発表

◆令和5年(2023)9月30日(土)午前11時～
下諏訪町立図書館 2階会議室

お話の部屋 スペシャル紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」発表会
参加者 諏訪湖クラブ 沖野 外輝夫、林 正敏、八幡 義雄
福の会、宮澤 みち子、大和 とし子、野村 洋子
聴衆 親子連れ 20名



読み聞かせ会の様子

◆令和5年(2023)10月1日(日)午後1時～4時
「ホテル紅や」ルビーホール

「諏訪湖の日のフォーラム2023」開催

- ・諏訪湖創生ビジョンの取り組み紹介
- ・基調講演 村木風海 炭素回収技術研究機構機構長
- ・食のサイエンスショー“諏訪湖を美味しく考えよう”
とういんくる星美さん
- ・講演；諏訪湖環境研究センター初代所長 高村典子さん
「生き物の多様性が湖を元気にする」



ルビーホール展示の様子
オオワシのパネルを展示

◆令和5年(2023)10月14日(土)午前11時～
諏訪図書館 物語・絵本コーナー

紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」読み聞かせ会

参加者 諏訪湖クラブ 沖野 外輝夫、林 正敏、
八幡 義雄
福の会、宮澤 みち子、大和 とし子、野村 洋子
聴衆 親子連れ 18名



諏訪湖で保護 23季連続飛来のおオワシ



住民団体が製作 豊かな自然 再生描く



「グル」との絆 紙芝居に

毎日新聞掲載記事

◆令和5年(2023)11月18日(土)岡谷市諏訪湖ハイツ
「第9回川ごみサミット in 諏訪湖」

参加者 約100名 季節外れの雪
湖浄連 小口智徳(岡谷市環境課)
マイクロプラスチック(人工芝など)は魚が
消化できなくなり餌をとれないため栄養失調に

◆令和5年(2023)11月20日(月)午前10時30分～ 岡谷市立みなと保育園

紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」読み聞かせ会

参加 諏訪湖クラブ 沖野 外輝夫会長、林 正敏、八幡 義雄

福の会 宮澤 みち子 大和 とし子 野村 洋子さん

みなと保育園 年長の園児5人、年中の園児9人、保母さん4人



真剣に聞いてくれました



最後に記念撮影

◆令和6年(2024)2月6日(火)9時00分～ 岡谷市教育長室

冊子の贈呈式

参加 岡谷市教育長宮坂亨

諏訪湖クラブ 沖野 外輝夫会長、八幡 義雄

高木 保夫 牛山 素吉

配布先 岡谷市内中学校(4校) 小学校(7校)

冊子(1)「諏訪湖の水生植物(変遷の軌跡)」

徒数/3+職員数 (1,448冊)

冊子(2)「諏訪湖の治水に繋がる釜口水門」

生徒数/3+5 (1,448冊)

岡谷西部中、南部中には地元として生徒数/2+職員数



◆令和6年(2024)2月9日(金)午後1時～1時40分 県立長野図書館 森林フォーラム

林正敏さん長年にわたる野鳥の保護の功績により長野県「ふるさとの森林づくり大賞」を受賞

国の天然記念物のオオワシ「グル」をはじめとする傷病鳥獣の保護や、環境学習、愛護思想普及などの長年の活動と功績が認められた。半世紀以上にわたり傷病鳥獣の救護に尽力し、受け入れた鳥は300羽以上、活動の中で一番印象に残るのがオオワシ「グル」で冊子「諏訪湖を愛したオオワシ『グル』の記録」は高い評価を受けた。(詳細は諏訪湖クラブニュース39号参照)

◆令和6年(2024)2月26日(月)午後1時～諏訪湖博物館

講演;「諏訪湖の水生植物の変遷と将来の課題」

講師;諏訪湖クラブ会長 沖野 外輝夫

テキストとして「諏訪湖の水生植物(変遷の軌跡)」

使用



講演会の様子

◆令和6年(2024)3月4日(月)北真志野区公民館 午後1時30分～
北真志野サロンにて紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」の
読み聞かせ会及び講演

参加；北真志野区サロンの会員約30名

(諏訪湖クラブ金子田美さんも会員として企画運営に参加)

講演；冊子；オオワシ「グル」の記録

講師；諏訪湖クラブ理事 八幡 義雄



サロンの会場の様子



紙芝居読み聞かせ会



金子田美さんのクイズ



講演；質問に対して回答の様子

◆令和6年(2024)3月5日(火)午前10時20分～ 諏訪四賀小学校校長室
贈呈式 冊子「水の学習/水はどこから来てどこに行くのか！」贈呈式

参加

諏訪四賀小学校 赤羽素乃校長

学習指導した先生二人

諏訪湖クラブ 沖野 外輝夫会長

理事田代 幸雄 八幡 義雄 高木 保夫



長野日報掲載記事

◆令和6年(2024)3月6日(水)午後1時～ 下諏訪町文化センター
第11回「諏訪湖創生ビジョン推進会議」

諏訪湖周での河川敷を含め河川区域のオープン化の動きの情報共有

参加；77名 諏訪湖クラブ；沖野、宮原 長崎(政)、高木、八幡、山村

◆令和6年(2024)3月7日(木)午前11時～ 諏訪地域振興局企画振興課
令和5年度元気づくり支援金事業「諏訪湖に学ぶ」実績報告書提出

他の民間団体との協働作業をしていることが評価された

(1) 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」 絵手紙「福の会」

(2) 水の学習「水はどこから来てどこに行くのか」 諏訪市立四賀小学校、GKB(下水道広報プラットフォーム)

令和5年度地域発 元気づくり支援金事業「諏訪湖に学ぶ」の総括書を提出しました

「令和5年度元気づくり支援金の実施例集」作成のために提出した内容です。

事業名	諏訪湖に学ぶ
事業主体 (連絡先)	諏訪湖クラブ 理事八幡義雄 携帯 090-1867-3249
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	847,282 円 (うち支援金: 667,000 円)

事業内容

- (1) 冊子：諏訪湖のことをもっと知ろう「諏訪湖の水生植物」A4 カラー36 ページ、「諏訪湖の治水に繋がる釜口水門」A4 カラー32 ページを各 6,000 冊作成し、諏訪郡市の小中学校他に配布
- (2) 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」の作成
地元絵手紙の会「福の会」と協働で、オオワシと鳥が大好きな爺さんの触れ合いの紙芝居 B4、12 ページ 120 部を作成し、諏訪郡市の保育園他に配布
- (3) 冊子；水の学習「水はどこから来てどこに行くの」A4 カラー16 ページを 5,000 冊作成し、諏訪郡市の小学校他に配布、下水道の役割などを学ぶ副読本として活用して頂いている。



完成した紙芝居を下諏訪町に届けた諏訪湖クラブと福の会のメンバー

【作成した紙芝居】

【目標・ねらい】

- ① 諏訪湖の自然のすばらしさ
- ② 下水の水がきれいになる仕組み
- ③ 諏訪湖の治水、地域とのかかわり
子どもたちの学びにしたい

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・オオワシ「ゲル」とのふれあいを描いた紙芝居を通して、子供たちに鳥たちへの配慮や諏訪湖の自然の素晴らしさを伝えることが出来ました。
- ・諏訪湖は 1999 年を境に、異常発生していたアオコが激減しました。透明度が上がり、湖底に日光が届く範囲にヒシが繁茂し、漁業や観光面において問題化となりました。今後は、ヒシの下で頑張り始めたクロモやエビモの繁茂と共にヒシが縮小することが予想されている。
- ・諏訪湖の治水については、自然の驚異に立ち向かい先代たち苦勞してきたが釜口水門ができ改善されました。

※自己評価 【A】

【理由】諏訪湖は、縄文の昔から現在まで、諏訪地域の生活と切っても切れない関係にあります。自然環境の保全や、諏訪湖の治水に対する地域の取り組みなどを子供たちに学ぶことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」の読み聞かせ会をして欲しいとの要望が多く寄せられており、これからもコロナ感染防止に配慮しながら、要望に応じていきたいと思っております。

水の学習「水はどこから来てどこに行く！」は、諏訪地域の水道の水をどこから取り入れているか、下水道の水をきれいにする仕組みなどを学習する副読本としての活用を期待しています。

冊子の入手をしたいとの問い合わせが多く寄せられており、その要望にこたえられるように諏訪湖クラブのホームページに冊子3冊及び紙芝居の全文を掲載しました。

冊子「諏訪湖の水生植物・変遷の軌跡」の紹介

1999年に諏訪湖のアオコが激減しました。リンの濃度が激減したことが起因しているようで、透明度が改善し、光がより湖底に届くことになった事から、湖底に実を落としていた浮葉植物であるヒシがまず元気を取り戻しました。ヒシの実は不思議な形をしています、湖底に落ちるととんがり湖底に突き刺さり固定され繁殖する植物です。

○ クロモの分布域拡大

浮葉植物のヒシは水面に葉を開くことが出来れば光を独占し、光合成により増殖、一見他の植物の侵入を許さないかに見えます。しかし、ヒシの群落の葉の下を覗いてみると水中にはクロモの群落が入り込んでいます。

クロモは多年生の水生植物で、根に栄養分を貯めこんで水温さえ条件に合えば春先でも、秋になってからでも増殖することができます。おまけにエビモの殖芽に似た葉先を作り、この厚手の葉先が切れて、流れ着いた場所で増殖するという離れ業までします。それだけ増殖力が強い、パイオニア的な水生植物です。そのクロモがヒシの群落に忍び寄っているということは早晩ヒシ群落がクロモ群落に遷移することを暗示しているわけです。クロモの群落も水面まで達すると船の走行に邪魔になり、湖面利用の面では問題となります。しかし、航路の表面部分を刈り取り船で刈り取るのはヒシの除去よりも簡単かもしれません。

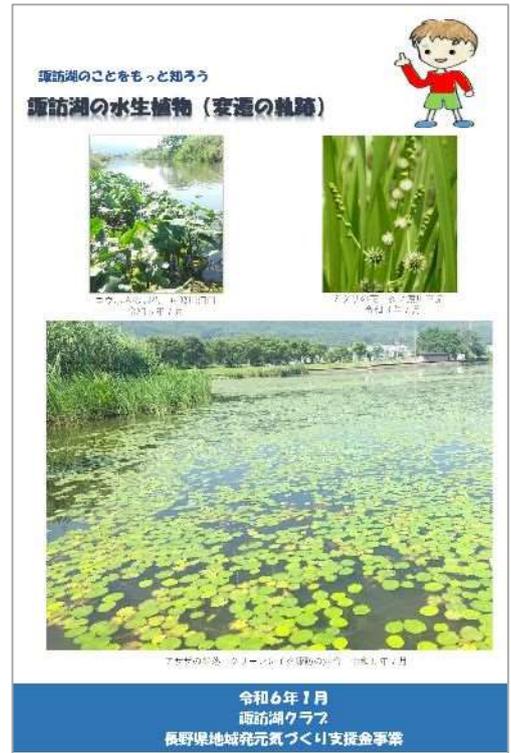
クロモに遅れて砂地を好むエビモや根系型の沈水植物が増加、種類相の回復につながる可能性を秘めているのが現在の諏訪湖かもしれません。ヒシは春先の発芽、伸長を沈水植物の定着で阻害され、底質の砂泥化が進行することで分布域は縮小、その生息域も本来の抽水植物帯寄りに戻ると期待しています。

○ 今後期待したいエゴの再生

小規模ではあるが、砥川、横河川の河口部湖側に砂洲の浅瀬が発達し、マコモ、ガマヨシなどが定着しつつあります。これをもとに新たなエゴを再生することが可能かもしれません。早急に、河口部の閉塞が起こらないよう、どのような方法があるかを検討することが必要です。



砥川河口の砂洲にやって来たカワウ



クリーンレイク諏訪の沖合に群生するアサザ



浮葉植物ヒシとその下の水中に見えるのは沈水植物のクロモ



砥川河口に発生した砂洲

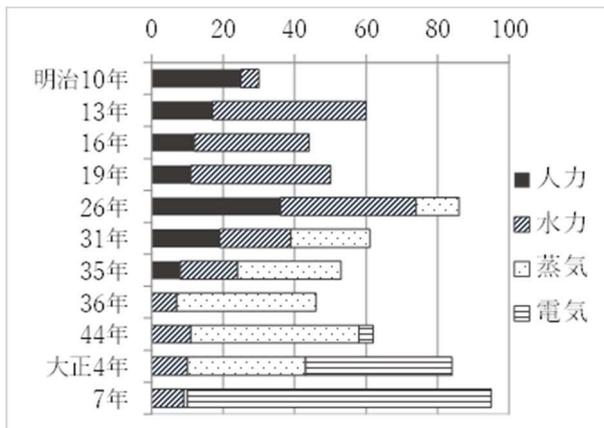
■ 冊子「治水に繋がる釜口水門」の紹介

江戸時代には諏訪湖や天竜川の治水に関しては、高島藩が天竜川に橋を架けさせないなど細部にわたることまで取り決めがされてきました。明治時代には、諏訪湖周辺の住民と天竜川の水を求めた蚕糸家の人々とは、相反する利害関係を持っているという難しさもあって多くの問題を引き起こしてきました。特に蚕糸業の動力源として使用された水車や天竜川に設置された湛えが諏訪湖周辺の浸水被害の要因となっていることから、水害が発生する度に水車や湛えを取り壊すことが常態化し明治24年頃には流血騒ぎを、その後裁判に発展してしまいました。

その後砥川の支流の東俣川に落合発電所が建設され明治34年から平野村（現岡谷市）にも給電されると動力源が水車から電気に徐々に変更されました。大正2年には水害を受ける住民が1坪当たり1銭の寄付を集め蚕糸家側に2万2千余円が支払われ19基の水車が撤去されました。

その後水害を受ける住民が明治44年に天竜川排水期成同盟会を結成され、抜本的な解決策として水門を設置して水をコントロールできる初代の釜口水門が昭和11年に完成することになりました。390ト流入、190トカット、200ト放流の洪水調節を出来るものでしたが、昭和25年に発生した大雨による浸水被害は床上浸水316戸にも及び、被害住民がトラックに乗り釜口水門に押しかけることもありました。

昭和42年に既往最大降雨理論から生起確率理論に見直され、100年の1度の確率に耐えられる二代目の釜口水門が昭和63年に完成しました。1600ト流入、1000トカット、600ト放流が可能となっています。現在は平成18年7月豪雨災害に対応する下流の護岸整備見合いの430ト放流となっています。現在は国により、釜口水門の500ト放流が可能になるよう天竜川下流の河川改修が進められています。



天竜川に設置された製糸業の動力源の推移

諏訪湖のことをもっと知ろう

つづいて

諏訪湖の治水に繋がる釜口水門





2007年10月新釜口水門（奥）に初代釜口水門（左）が並んで設置された様子

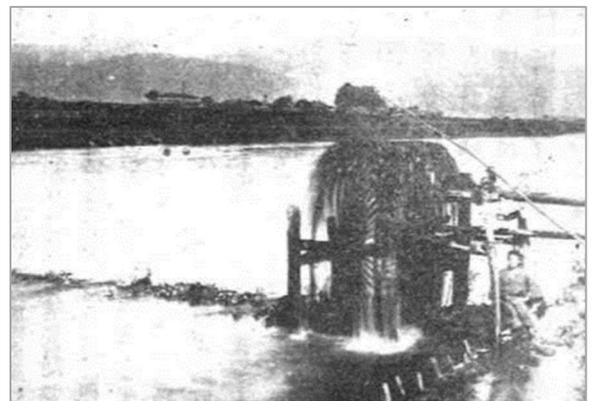
目次	
日根野高吉「高島藩を築城」	pp.1
高島藩は水田の灌漑に力を入れた	pp.2
谷天月、新中島の製生と機夫	pp.3
世界の蚕糸業を支えた平野村の電糸業	pp.7
天竜川に架かる橋梁の歴史	pp.13
天竜川の田舎いや散乱い工事	pp.20
初代釜口水門の建設	pp.22
二代目釜口水門の建設	pp.24



令和6年1月
諏訪湖クラブ
長野県地域発元気づくり支援金事業

冊子の表紙

完成間近の釜口水門、奥に初代釜口水門、その奥に釜口橋が見えます。近く架け替えが計画されています



天竜川に設置された水車 脇にいる人の大きさからかなり大きいことがわかります

■ 冊子「水の学習/水はどこから来てどこに行くのか！」の紹介

○水の学習

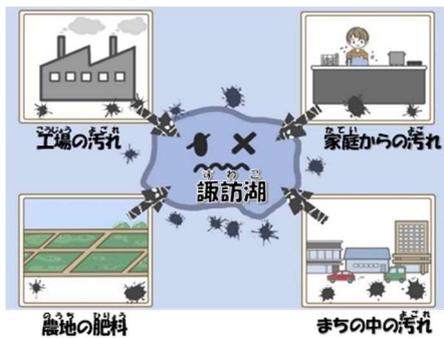
普段水道の蛇口をひねれば、いつでもきれいな水が出てきます。この水はどこから来るのでしょうか。また、使われた水はその後にどこに行くのでしょうか。そんな疑問から水の学習は、始まります。

この冊子は、諏訪湖クラブが企画を担った「2022 諏訪湖の日のフォーラム」にあたり、諏訪市四賀小学校で行われた下水道広報プラットフォーム（G K P）の栗原秀人アドバイザーの出前講座「うんち君の旅」、続けて2023年に同小学校で行った「水の学習」の授業を踏まえて作成されています。両授業は、G K P出前講座「うんち君の旅」を核として、諏訪市水道局、長野県諏訪湖流域下水道関係者の協力のもと行われました。

諏訪地域の上水道や下水道仕組み、諏訪湖浄化の取り組み、水の循環をわかりやすくまとめた児童用の冊子です。小学校の4年生の「水の学習」や「ふるさとの学習」で、多くの学校において副読本として活用していただきたいとの思いから作成しました。

○諏訪湖が汚れたのは

昭和30年代から40年代にかけて、いろいろな汚れが諏訪湖に流れ込み諏訪湖の水質が悪化してしまいました。



諏訪湖に流れ込む汚れ

昭和40年代後半から、諏訪湖をきれいにするための取り組みが始まりました。

- ・ 諏訪湖の湖底のヘドロを取りのぞく。(しゅんせつ)
- ・ 家や工場から出る汚れた水を、下水道を整備して処理する。
- ・ 田んぼや畑で使う肥料の量を工夫して少なく使う。

地域の皆さんが参加しての諏訪湖周辺の清掃活動などにより諏訪湖の水質が大分改善されてきました。

○諏訪湖の浄化に繋がった下水道

県下でもいち早く整備された諏訪湖流域下水道により、諏訪湖の浄化に大きく貢献しました。水をきれいにしてくれるのは多くの微生物の働きが寄与しています。

○みんなにもできること

きれいな水を守るためには暮らしの中でみんなができることがあります。下水道に流してはいけないものを流すと下水道をきれいにする微生物を弱らせてしまいます。皆さんが下水道を正しく使うことで諏訪湖や流れる天竜川そして海がきれいになることに繋がります。

【担任の先生の想い】

諏訪湖をかかえている諏訪市に住む児童にとって、この学習から諏訪湖への関心を持ち、歴史的に諏訪湖をきれいにしていこうとする活動があることを知り、将来自分たちが大人になったとき、さらにきれいな、誰にでも誇れるような諏訪湖になるよう将来の夢を持ち、自分たちができることをやっいていこうという気持ちを持つことで、郷土に対する誇りを持って欲しいと思いました。



長野県地域発元気づくり支援金事業 「諏訪湖に学ぶ」三ヶ年計画(案)

令和3年		令和5年		令和6年(案)	
	LCV放映番組DVD化 (1)諏訪湖底の狩人たち (2)諏訪の大地誕生 (3)諏訪湖は、鳥の宝庫 (4)諏訪湖の治水 (5)誰もが楽しめる諏訪湖 (6)諏訪湖のめぐみ	200本 275,000	諏訪湖の水生植物 A4サイズ、36ページ 水生植物の変遷 水生植物の生活様式 水質の変動と水生植物 編集 沖野外輝夫	6,000部 292,375	「諏訪湖に生息する魚介類」 A4サイズ、40ページ 諏訪湖の魚類 諏訪湖のエビ類 諏訪湖の貝類の減少 プランクトン 協力;武居薫氏、漁業組合
1					
	オオワシ「グル」の記録 A4サイズ72ページ オオワシの生態 オオワシ「グル」の介護 オオワシなどの猛禽を守る グルと地域の人のふれ合い	6,000部 440,430	うんち君の旅 A4サイズ、16ページ 水はどこから来るの うんち君の旅 下水をきれいにする微生物 協力;GKP下水道広報プラットフォーム 諏訪湖流域下水道事務所	5,000部 80,478	「諏訪湖の大地誕生」 A4サイズ、16ページ フォッサマグナの誕生 プリアパート 開口運動 協力;北澤和男氏
2					
	令和6年度元気づくり支援金 支援金(重点事業) ソフト4/5 ハード3/4 支援金下限 30万円 令和5年12月 説明会 令和6年1月 事業計画書申請 2月 ヒアリング 4月下旬 審査結果公表 5月 本申請・事業開始		紙芝居 オオワシと鳥さち爺さん B4サイズ12ページ 絵・林正敏 協力;絵手紙「福の会」	120部 261,029	諏訪湖のことをもつと知ろう 「諏訪湖は鳥の宝庫」 A4サイズ、32ページ コハクチョウの飛来 カワウの生態 渡り鳥の生態 協力;林正敏、笠原里恵氏
3					
			諏訪湖のことをもつと知ろう 「④治水に繋がる釜口水門」 A4サイズ、32ページ 明治時代の諏訪湖の氾濫 水車事件 釜口水門の建設 協力;諏訪建設事務所	6,000部 199,903	諏訪湖のことをもつと知ろう 「日本の近代化を支えた蚕糸業とカイコの生態」 A4サイズ、24ページ カイコの不思議 協力;伴野豊氏
4					
	合計	716,870		833,785	
負担内訳	元気づくり支援金	431,000	×4/5 (千円止め)	667,000	585,000
	諏訪湖クラブ負担金	172,740		166,785	146,780
	寄付金他	113,130			

■ 湖沼水環境保全に関する自治体連携と諏訪湖創生ビジョン ---水環境保全技術を視野に入れて--- 監事 井上 祥一郎

2018年10月に茨城県霞ヶ浦で第17回世界湖沼会議が開催された。開催期間中の10月16日、滋賀県の呼びかけにより茨城・長野・滋賀・鳥取・島根の5県の知事を発起人とする「湖沼水質保全に関する自治体連携（以下 自治体連携）」が設立され、知事共同記者発表が行われた。

設立宣言は「持続可能な人と湖沼の共生を目指し、湖沼生態系から得られる恵みを回復し、維持するため、先進的な政策に取り組む5県の知事が発起人となり、『湖沼水質保全に関する自治体連携』を設立することをここに宣言します。今後、各自治体が連携し、課題を共有しながら、設立趣旨に基づいた様々な活動により、湖沼の水質や生態系を含む水環境保全に関する取組をこれまで以上に強化いたします。」とある。



「第17回世界湖沼会議で自治体連携設立」

設立趣旨は「湖沼は、古来人々の生活と生産活動を支えてきたかけがえのない国民的資産です。また湖沼は、水道水源、豊かな水産資源を育む場、良好な景観を構成する場、レクリエーションの場となっている他、治水面等での機能、学術上の価値を有しています。このような湖沼のもたらす多様な恵みを将来にわたって私たちが享受することができるよう、それぞれの湖沼の特性に応じた的確な水環境保全対策を講じる必要があります。

各湖沼においては、従前から流入負荷削減対策を一定進めていますが、更なる水質の改善には、複合的な取組が必要であると考えられます。また、水質以外にも魚介類の減少、水草や外来水生植物の繁茂など生態系の課題が顕在化しています。これらの課題を解決し、湖沼生態系がもたらす恵みを回復し、維持し、貴重な地域資源として享受する「人と湖沼の共生」が求められています。そこで、『湖がもたらす恵みを回復しましょう！！』を合言葉に、各湖沼において様々な取組を実施してきた自治体が連携し、知見の共有、事例の学び合い、課題への理解の深堀り、共同調査の実施等をおこなうことにより、必要となる施策の高度化を図ります。また、連携により得られた知見・情報を国と共有し、各湖沼における取組の円滑な推進に繋がります。」とある。

繰り返すが、設立宣言で「持続可能な人と湖沼の共生を目指し、湖沼生態系から得られる恵みを回復し、維持する」目的を掲げ、設立趣旨で、目的遂行を「5県が連携し、知見の共有、事例の学び合い、課題への理解の深堀り、共同調査の実施等をおこなうこと」により必要となる施策の高度化を図るという。

私は農村環境研究会（東京都文京区 岸博代表）の開発技術、「複合ラグーン法（以下ラグーン）」と「小山・岸法（仮称）」を習得。ラグーンで、下水、食品工場排水、養豚場尿汚水等を、窒素・磷除去の高度処理をし、放流先の水環境を保全してきた。特に養豚場の尿汚水の実績が多い。また小山・岸法で、嫌気状底泥（以下ヘドロ）の改善法を身につけた。具体的にはヘドロ中の鉄から曝気により硫黄を外し、代わりに酸素を付ける、見た目では黒色泥を赤色泥に変える。理屈は自然界の鉄酸化細菌と硫黄酸化細菌の手助けで、浚渫窪地等での顕著な貧酸素化、硫化水素発生に確実に対応する術を手中にした。

両技術の確かさは、国家資格技術士登録でお分かり頂けよう。ラグーン実績で、上下水道、衛生工学、農業（畜産）3部門、小山・岸法で、水産、応用理学（地球物理および地球化学）2部門に登録した。

連携5県の湖沼は霞ヶ浦、諏訪湖、琵琶湖、中海、宍道湖に代表される。この内、最も生態系の恵みを失ったのが中海であろう。調査によれば800万㎡、3,000万㎡の浚渫窪地があり、硫化水素の発生が著しい。国の減反政策による中止干拓事業が残した土砂採取跡も多く含まれる。採取跡を石炭火力発電廃棄物の石炭灰造粒物で埋め立てる実験が続けられているが、渚に水流で運ばれることもあり問題と思うと、出雲市での技術士研究発表会の会場で聞いた。浚渫窪地が生態系に悪影響を及ぼすことは、平成18年3月環境省環境影響審査室発行の「海域における深堀跡等の埋め戻しに関する考え方(案)」に詳しい。この委員会の委員、井内美郎愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授(当時)は、琵琶湖、霞ヶ浦の研究から浚渫窪地では選択的に底泥の堆積速度が20倍速いと「ヘドロトラップ」概念を示されている。

私事であるが、中海、宍道湖のある松江市、琵琶湖のある近江八幡市にも宿泊場所を確保しており、大学やボランティアの方達とも交流がある。上述の井内氏が地質調査所に在職中、中学の生物教師の兄弟弟子に当る関係を知った。また、沖野会長の早稲田大の後任者というご縁もある。親しい宍道湖漁協の原俊雄元組合長には、中海の浚渫窪地の扱いの検討会の場で、意見を述べられる井内氏の記憶があった。

諏訪湖創生ビジョン(以下ビジョン)に関して、複数のワーキンググループ(以下WG)があり、私は「浚渫」と「漁業振興」WGに参加している。前者では、2ヶ所の浚渫が試験的に進められる。それについて3月6日下諏訪の会議の場で、浚渫窪地に選択的に落ち込む有機物の撤去という維持管理を行わない場合、窪地が貧酸素の発生場所になる可能性を指摘した。貧酸素状態は水産へのマイナス影響は避けられず、後者WGの関心事である。

以上の経緯から、浚渫WG2ヶ所の維持管理法について、井内元教授に講演を依頼したいと考えている。小規模であっても実地実験である。井内講演が決まれば、設立趣旨に則り自治体連携関係者の参画を期待したい。4月に岡谷に「諏訪湖環境研究センター」が開所される。高村典子新センター長と下諏訪のミーティングで同席した高木理事によると、5年程度先の世界湖沼会議に立候補するとのことである。

1990年琵琶湖南湖赤野井湾での、底質改善「琵琶湖コンペティション」選抜技術実験に立ち会った。農村環境研究会の選抜技術提供を受けて、実験に向けESTグループが組織された。米国特許を得た小山・岸法の前段階概念の大掛かりな実験が実施された。改善対象ヘドロの汲み上げと、改善泥の撒き戻しは滋賀県が担当された。(岸博代表は昨年、諏訪湖に来られ、沖野会長、高木理事が案内された。)

自治体連携は全く動いていないと考えていたが、滋賀県によれば、島根県との交流を23年度に実施しており、浚渫窪地問題も出たとのことである。長野県にその情報が知らされたかどうかは不明である。

滋賀県は、保全技術採用は各県の事情を優先し、自治体連携の枠組では考えていないが、手持ちの技術情報の提供は吝かでないとの見解である。小山・岸法は、琵琶湖赤野井湾の他、米子水鳥公園でも類似の施設が別用途で稼働中である。島根県水産試験場の資料に、硫化水素によるサルボウガイの斃死抑制を赤土散布で行い成果があったと記録に残っている。稲作技術の応用で自然生態系の教えに従ったという。

最近「水清ければ魚棲まず」が、不漁の続く湖沼・内湾で言われることが多い。しかし、透明度が小さければ光合成の範囲が狭まり、珪藻等水産資源を支える餌料不足と貧酸素化を助長する。信大繊維学部のある上田市は、生態系を利用する浄水場がある市として知られ、 α 中腐水性の原水を、極めて濁度の低い(0.0001) β 中腐水性への処理能力を日常的に見せている。琵琶湖湖南中部浄化センターが「超高度処理実験」に結果を出されているが、経済的には上田方式が有利であろう。クリーンレイク諏訪の高度処理水を、上田方式を参考にした「生物浄化法」に通し、きれいで豊かな放流水を諏訪湖に供給する。自治体連携の成果に繋がる長野県発の協働技術事例となろう。下水道の市民科学に繋がる活動にもなる。

自治体連携に技術を挟んでビジョンと重ねてみた。双方の活性化に是非繋げたいと思う。 以上

■ 林正敏さんが所有の鳥類標本2,400点他を国立科学博物館に寄贈

明治末期から大正期にかけ鳥類学の黎明期に集められた数多くの鳥の標本を保管している諏訪湖クラブ会員の林正敏さんが、このほど国立科学博物館と協議の末、資料全点を寄贈することが決まりました。これを前に6月8日（土）から7月7日（日）まで原村の八ヶ岳美術館で公開展示が行われます。

科博へ寄贈される標本類は、鳥類が約2,400点、各種鳥卵が約400点、小型獣類が約50点、このほか歴史的な標本図画の掛け軸や、大正期の狩猟鳥類掛図（石版画）など10点です。贈られる鳥の標本は全て仮剥製で、研究用を目的に製作されているため学術標本と呼ばれています。

林さん宅で保管するこの標本は2ヵ所から贈られたもので、松本市の実業家で農商務省の鳥獣調査員だった故高山忠四朗氏（1901-1993）が県内で捕獲した鳥類で当時は狩猟鳥だったライチョウをはじめホシガラス、イワヒバリなど北アルプスの鳥も数多くあります。

もう一方は旧上諏訪町長を務めた金井汲治氏（1858-1939）が蒐集した鳥類で、大型猛禽類や大型水鳥もあり1893年に上諏訪湯の脇で採集したオオワシのほか、子息で戦後初の諏訪市長を務めた金井清氏（1884-1966）が、中国大陸で入手したクロハゲワシなど特大の標本類などもあります。



標本の整理を行う野鳥の会諏訪支部のメンバー

八ヶ岳美術館で「林正敏蔵・野鳥関係資料展」開催

日時 令和6年8日（土）～7月7日（日）9時～17時（入館は16時30分までに）

場所 八ヶ岳美術館 諏訪郡原村 17217-1611 電話 0266-74-2701

内容 鳥の剥製他を展示

講演 7月4日（木）13時30分～ 講師 林正敏氏 「野鳥関係資料について」

● 嬉しい報告です

林正敏さん長年にわたる野鳥の保護の功績により長野県「ふるさとの森林づくり大賞」を受賞

諏訪湖クラブの会員である林正敏さんが、令和6年2月9日（金）県立長野図書館 森林フォーラムにて「ふるさとの森林づくり大賞」を受賞しました。

国の天然記念物のオオワシ「グル」をはじめとする傷病鳥獣の保護や、環境学習、愛護思想普及などの長年の活動と功績が認められた。半世紀以上にわたり傷病鳥獣の救護に尽力し、受け入れた鳥は300羽以上、活動の中で一番印象に残るのがオオワシ「グル」で、1999年1月に諏訪湖で衰弱しているところを助け49日間にわたり献身的な介護を行い回復後放鳥して以来19季連続で諏訪湖に飛来した。この時の心温まる介護や地域の触れ合いについて記した冊子「諏訪湖を愛したオオワシ『グル』の記録」は高い評価を受けた。

日本野鳥の会諏訪支部長時代は、諏訪湖の銃猟禁止を粘り強く必要性を訴え、利害関係者で話し合いを続け理解を得て今の形になった。塩嶺小鳥の森の自然観察会「小鳥バス」を40年間にわたり案内を担った。鳥獣保護分野からの選出は表彰制度の創設以来初めてという。なお、2月13日には諏訪地域振興局宮原渉局長に受賞の報告に訪れた。

長野日報掲載記事より一部引用



表彰状を受ける林正敏さん

■ 諏訪湖周サイクリングロードの橋梁整備

長野県は、施設の整備による景観の改善や満足度の向上などの従来からの客観的指標だけでは計りきれない新しい視点での社会資本の整備が求められています。そのため、地域のビジョンの実現、課題の解決に向けて、地域と連携・協働しながら、戦略的に社会資本整備を進める「地域戦略推進型公共事業の取り組み」を平成28年度から進めています。

- ① 「諏訪湖」を活かした戦略的まちづくり
- ② 歩こう！走ろう！観光地の歩道グレードアッププラン

「諏訪湖」を活かした戦略的まちづくりの中では、1) 諏訪湖の魅力を活用した観光。2) 諏訪湖周のジョギング、サイクリング、ウォータースポーツ施設を活用した健康増進。3) 諏訪湖を安全で快適に楽しむことができる環境。4) 人が集い良好な生態系を有する魅力的な諏訪湖を目指しています。

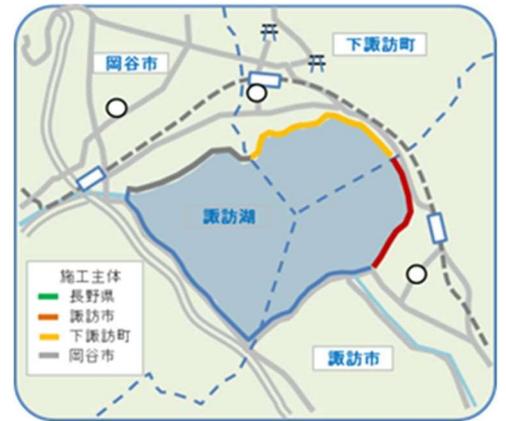
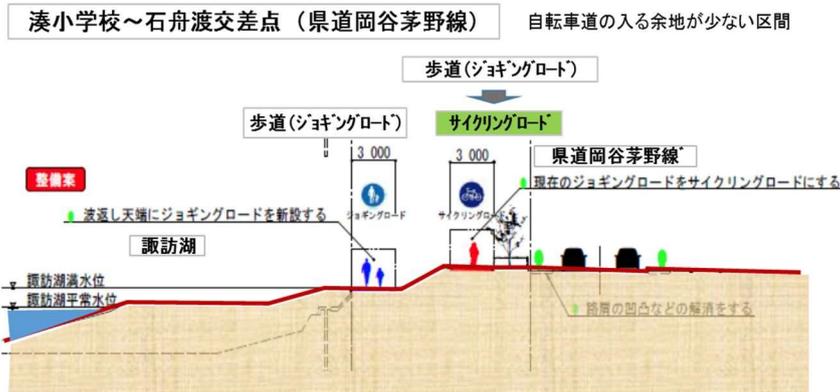


図 39 施工区分

○ 諏訪湖周サイクリングロードの標準横断面



サイクリング道路標準横断面図



○ 諏訪湖サイクリングロード 1.4 km が開通しました

諏訪湖サイクリングロードの小田井交差点から釜口水門までの 1.4 km が令和 6 年 4 月 1 日に開通しました。これで県施工区間 6.6 km の全区間が供用開始されました。



釜口水門まで繋がりました

○ 舗装の違いで雪解けも異なる！



岡谷市小坂交差点付近です

県道岡谷茅野線現道の大型車規制が始まった 3 月 1 日の 11 時頃の岡谷市湊小坂交差点の様子を見にやってきました。前日は雪降りでしたが晴れ間ができサイクリングロードは雪解けたのに、なぜか歩道・ジョギングロードの方は雪が解けていません。なぜ？

理由；前日午前中の太陽からの熱を路盤の中にため込んでいたと思われます。ジョギングロードの舗装はゴムチップ入りの舗装で断熱効果があるため熱を保存できなかったようです。

課題(1) 自転車用の橋梁整備がされていない河川 (3カ所)

道路の位置付けが自転車専用道路であれば専用の橋梁を整備することが望ましいのですが、整備されていない河川があります。

- ① 砥川河口の橋 W=6.0m (下諏訪町)
- ② 十四瀬川河口の橋 幅員 W=6.0m (岡谷市・下諏訪町)
- ③ 横河川河口の橋 幅員 W=5.5m (岡谷市)



位置図 アイトピアに諏訪湖環境研究センター入所



③ 横河川河口 (白鳥橋)



横河川河口は白鳥の飛来地

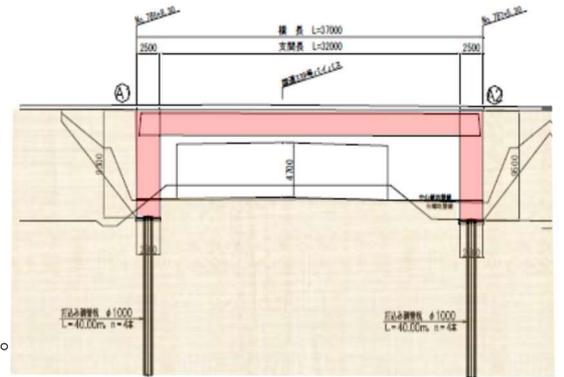
○隣接橋梁に適したインテグラルアバット構造の橋梁

従来の設計手法ですと(特に軟弱地盤の橋の設計)杭頭の水平変位により、杭の本数が決定されていました。

ラーメン構造を採用することにより、不静定構造となりますが、水平方向は打ち消し合い下部構造がコンパクトになります。

【特徴】

- ・経済性 ; 両橋台の背面土圧を均衡させ、地震時も背面との受動抵抗を期待することで杭頭反力を軽減できる。
→下部工がコンパクト
- ・維持管理; 支承、伸縮装置、落橋防止装置が不要となり、工費および維持管理費が低減できる。
- ・走行性 ; ジョイントレス構造であるので走行性に優れ、振動・騒音が軽減できる。
- ・耐震性 ; 上下部一体型のラーメン構造であるため、不静定次数が高くなり、耐震性が向上する。



インテグラル橋台を採用した橋梁一般図

課題(2) 一般車両と交差する箇所 (1カ所) の安全性の確保

漁業組合や原田泰治美術館など車の出入りの可能性がある施設は在るが、公道としての交差する箇所は1カ所しかない。

(自転車専用道路であれば立体交差が望ましい。)

上川右岸道路(市道認定されている)との交差

お互いに認識できるようにするため植栽は最小限にしたい。



位置図



上川大橋側より下諏訪方面を望む
左から車が接近する



上空より交差箇所
南側にS字の道路を整備すれば安全性が増す

■ 県道岡谷茅野線の大型車規制始まる

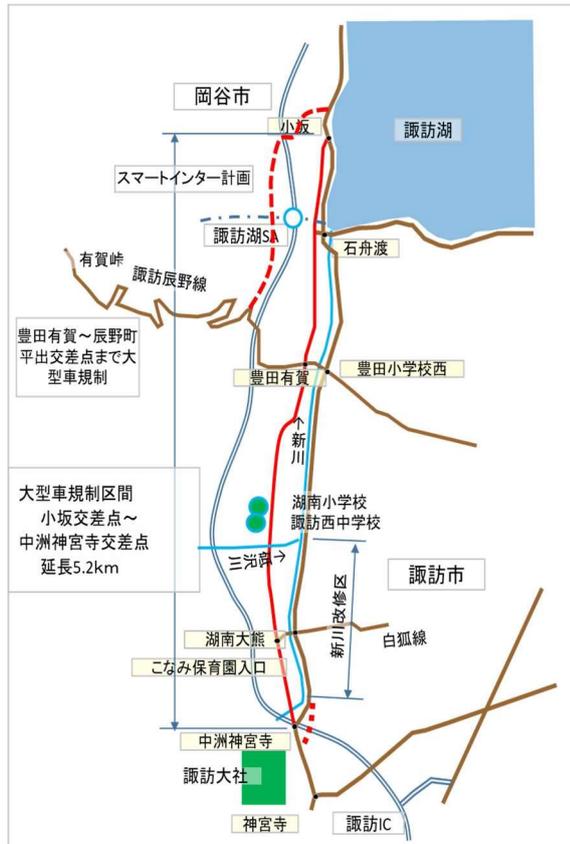
理事 八幡義雄

湖南地区を南北に通る県道岡谷茅野線は、諏訪地域の西側の軸を形成しており、国道20号の諏訪バイパスの整備が進んでいないことから地域外からの多くの通過交通車両がこの路線に入り込み、交通事故の多発及び交通騒音・振動により住居環境の悪化を招いている。過去には平成14年(2002年)～平成24年(2012年)の間に県道岡谷茅野線の中洲神宮寺交差点から石舟渡交差点西までの延長4.4kmの区間において、6件の歩行者の死亡事故が発生しました。湖南地区区長会は「西街道交通問題を考える会」と協働して長野県や諏訪市に県道岡谷茅野線の交通安全対策を要望してきましたが令和6年3月1日に念願の大型車規制が始まりました。

起終点方式と呼ばれる規制で、岡谷市小坂、諏訪市中洲神宮寺交差点からは大型車は進入できない。



規制に合わせて案内標識を修正

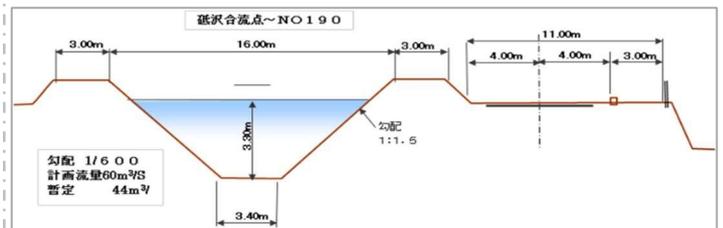


【整備効果】沿道の住民から大型車が激減したことにより振動・騒音が減少し生活環境が目に見えて改善した。

湖南地区が県・市に要望している重要路線

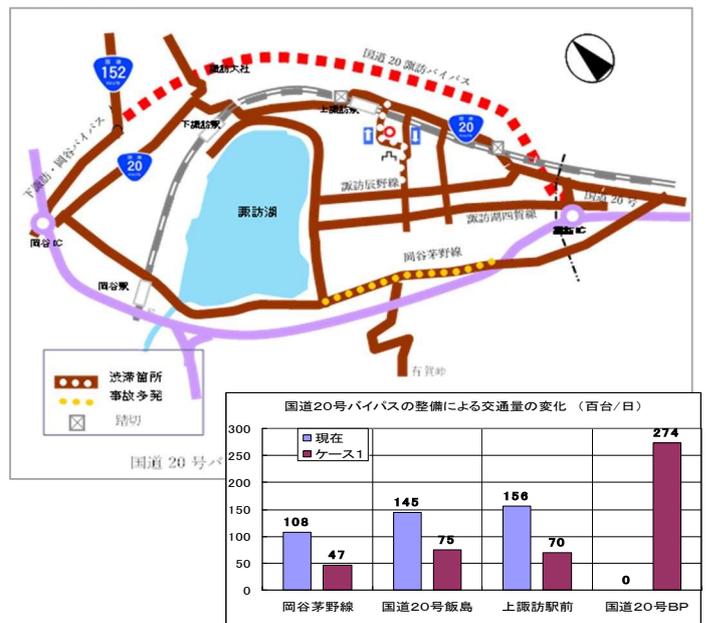
(1) 新川バイパス

延長 L=1,100m 幅員 W=11.0m (歩道3m)
平成21年(2009)8月8日の時間雨量118mmと想像を絶する豪雨により小田井沢他が被災。現地を訪れた村井知事は新川の改修を約束したが12年経過したが河川改修及び道路整備が進んでいない。早期完成を強く要望している。



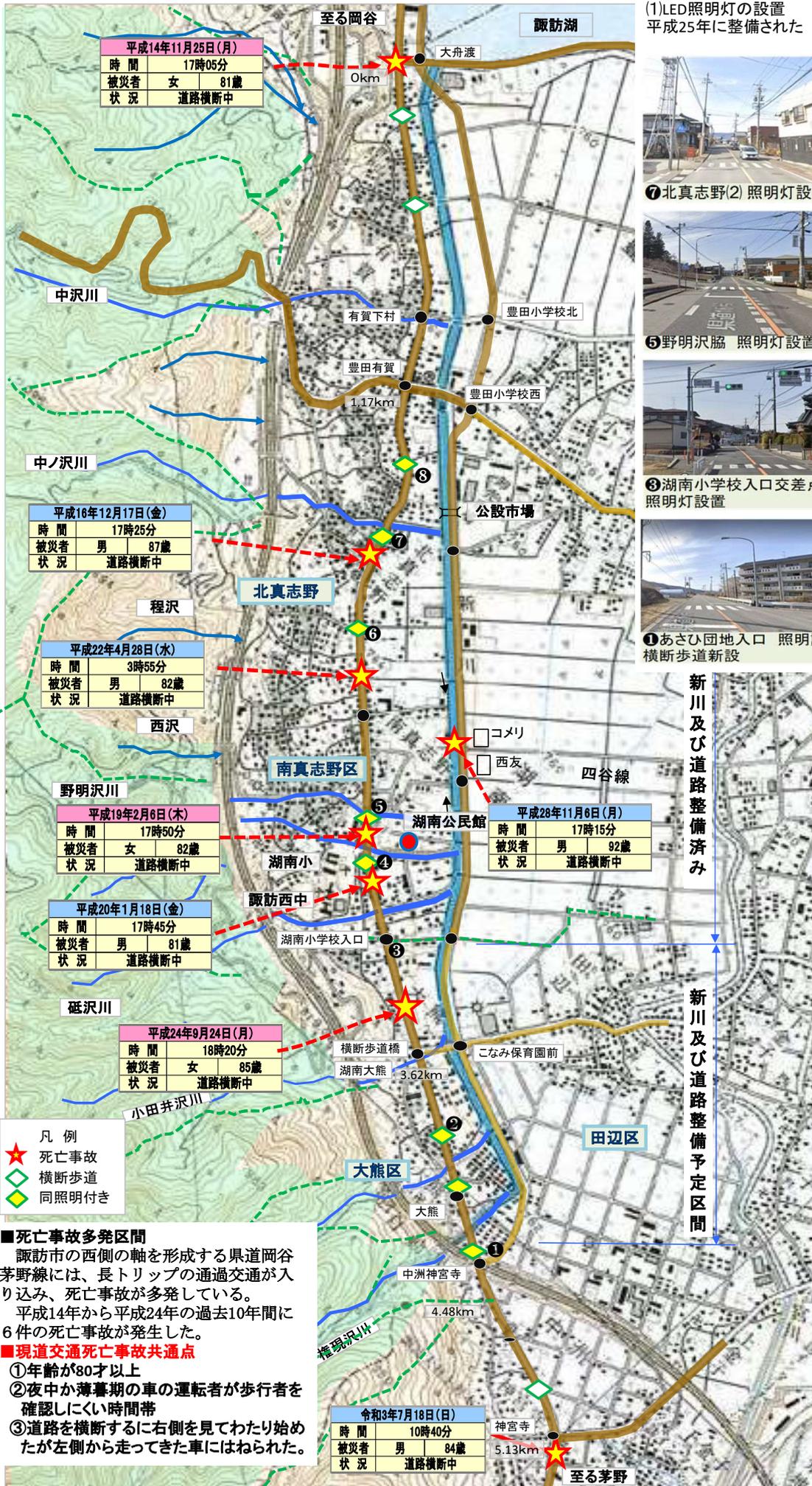
(2) 国道20号諏訪バイパス

茅野市宮川の国道20号中河原北交差点から下諏訪町東町の国道142号に接続するまで、約14kmの区間で未整備区間は飯島から国道142号までの約11km 令和4年1月環境アセスの準備書に諏訪市長が同意



【整備効果】国道20号諏訪バイパスが整備されると岡谷茅野線の交通量が108(百台)→47(百台)に減少すると期待されている。

主要地方道岡谷茅野線(諏訪市内)の交通死亡事故多発とその安全対策



平成14年11月25日(月)		
時間	17時05分	
被災者	女	81歳
状況	道路横断中	

平成16年12月17日(金)		
時間	17時25分	
被災者	男	87歳
状況	道路横断中	

平成22年4月28日(水)		
時間	3時55分	
被災者	男	82歳
状況	道路横断中	

平成19年2月6日(木)		
時間	17時50分	
被災者	女	82歳
状況	道路横断中	

平成20年1月18日(金)		
時間	17時45分	
被災者	男	81歳
状況	道路横断中	

平成24年9月24日(月)		
時間	18時20分	
被災者	女	85歳
状況	道路横断中	

平成28年11月6日(月)		
時間	17時15分	
被災者	男	92歳
状況	道路横断中	

令和3年7月18日(日)		
時間	10時40分	
被災者	男	84歳
状況	道路横断中	

- 凡例
- ★ 死亡事故
 - ◇ 横断歩道
 - ◇ 同照明付き

死亡事故多発区間
 諏訪市の西側の軸を形成する県道岡谷茅野線には、長トリップの通過交通が入り込み、死亡事故が多発している。平成14年から平成24年の過去10年間に6件の死亡事故が発生した。

現道交通死亡事故共通点

- ①年齢が80才以上
- ②夜中か薄暮期の車の運転者が歩行者を確認しにくい時間帯
- ③道路を横断するに右側を見てわたり始めたが左側から走ってきた車にはねられた。

(1)LED照明灯の設置
 平成25年に整備された 照明灯 8基 横断歩道 2か所



(2)路面標示による対策



(3)案内標識の整備



(4)信号機設置 令和5年11月



注；石舟渡西～中洲神宮寺交差点(距離3.6km)の10年間で死亡事故6件は長野県管理の道路の平均死亡事故率の約20倍

■ 国民森林会議とわたし ---奥山の大木 里へ下りて 神となる---

理事 高木 保夫

わたしが国民森林会議とご縁をいただいたのは、学恩からである。信州大学の初代経済学部長が隅谷三喜男先生であった。隅谷教授からはご専門に加えて、松本の官舎での聖書研究会に加えていただいた。優子夫人のチーズケーキが忘れられない。本会の初代会長が隅谷先生、二代会長がゼミの教官でもあった大内力先生という学恩から会員の末席に加わった。一九八九年八月に発足した、本会の八ヶ岳教育森林教室(自然と森の学校)に参加し、その後現地山小屋との連絡係となった。写真は、八ヶ岳高見石小屋「星の観察会」の一葉である。右側から講師の大蔵満氏(長野市立博物館)、松澤譲氏(教育森林の提唱者)、井出孫六氏(会員)、小生である。三年かけて「森の学校」を卒業し、国民森林会議の総会にも出席するようになった。



八ヶ岳高見石小屋の「星の観察会」

例年、三月に本郷の学士会館分館で行われた総会の様子を、手元の記録から抄録したい。一九九七年三月二二日の第十五回の総会では、大石武一氏(元環境庁長官)が、「人類は如何にして二十一世紀を生きるか」を講演された。植物が好きで、中学の教師になりたかったが、父親の意向で東北大学の医学部へ進学。十三年学究生活を送った後に父親の急逝で補選に出馬当選し、以来厚生畑を歩かれた。社会保障制度審議会、大内兵衛会長にヒューマンスティックなものの考え方を教わったという。自然保護ということは、人類の将来を切り開く大きな道である。地球の五十億年よりみて人間の数万年は一瞬。それがもう滅びようとしている。このままでは人類は百年持たないと結ばれた。

二〇〇〇年三月二五日の総会は、会員数一四八名に対して、出席者一七名、委任状出席が九〇名。午後一時一〇分に開会。議長に(助)森とむらの会の杉本一さんを選出した。この総会で会長を退任された大内力先生からは、「本会の中心的な仕事は、提言することである。いまから読んでもなかなかよいことが書いてある。残念ながらほとんどが空振り。日本の森林は率直に申し上げて、荒廃を極めている。特に国有林はますますの人減らしを行っている。こうした中であるが、かなり広く、国民の森林への関心が高まっている。林業で働きたいと若い人が山村に戻っているの、バックアップをお願いしたい。小生は老朽で、あしたにもポシャルかもしれない。幸い後任の半田さんは、林業がご専門で期待したい」と挨拶された。これを受けて半田良一新会長は、「発足以来二代にわたって、非常に識見の高い会長の下で提言集団として、高い評価をいただいた。一九九二年のリオのサミット以来、林業、森林をとりまく動きが変わってきた。本会の特色は、①林業の営みと人を守る ②自然環境を守る ③山村の生活と文化を守るの三点である。広い層にご参加いただいて検討を重ね、若い人までつないでいきたい。相互研鑽の中より立派な提言をめざしたい」と話された。

二〇〇七年三月一〇日の総会の講演は、民族文化映像研究所(民映研)の姫田忠義氏であった。高知県の椿山(つばやま)の焼畑について話された。雑穀主体の焼畑は、夏に木を伐ってすぐに焼く夏山と、前年の夏に木を伐って春に焼く春山がある。その焼畑で、ヒエ・アワ・大豆・小豆・トウモロコシ・ソバ・タイモなどを三年から五年つくって、また山に返す。その後二十年から三十年周期で、もとの場所にかえってくるそうだ。日本では、斜面の高い方から火をつけてから下っていく。インド南部やラオスでは、下

から火を打つという。畠（ハタケ）は、家のそばにある常畠であり、白は肥やしを意味するという。大豆は肥料がたくさんいるので、家の近くに植える。かつての日本では、山に接しているあらゆる職業の人、木地師とかいろんな職業の人が成り立っていた。それらの人たちが生きられる生活設計、社会体制、そしてそれらの人たちの自然観、生命感を学び直さねばならない。あらゆる空間でどれだけの人が糧を得るために、どのくらい細かいことをやってみたかを観る必要がある。いっせいに伐採したり、植林するのだけれど、ある条件のなかでは、大きく崩壊してしまう。どんな状態でも、ものは朽ちたり崩壊するのだけれども、現代は崩壊条件を、より大きく作ってしまっている状態である。近代化というのが、そういう方向だ。「自然に絶えず問え、思い上がるな」と警鐘を打たれた。

さて、諏訪大社の御柱（おんばしら）である。祭りは、十二支の寅（とら）と申（さる）の七年目ごとに営まれ、二〇二二年（令和四年）曳行された。正式名称は「式年造営」であり、古代においては七年目ごとに上社と下社の宝殿を建て替え、その建築材を宮まで引き出した。木遣り唄にある「奥山の大木 里へ下りて 神となる」の一節は、ここから来ている。中世文書の「諏訪大明神画詞（えことば）」には、「当社造営、桓武の御宇に始れり」とある。本宮一のご神木（ウラジロモミ）は、樹齢二百年、直径一メートル、重さ十トン、長さ十八メートルの巨木である。八ヶ岳の御小屋山（標高二一三六メートル）から、十キロをこえる道を人力で曳く。二〇〇メートルの引綱に、三〇〇〇人の氏子がぶらさがる。ただ木を曳き、通過する土地の神さまと交歓する。曳行路には、神の轍が刻まれる。

縄文の一万年は、焼畑とさまざまな林齢の雑木林が周期的に循環して、森林と人間は共存していた。縄文人にとって、生きるための恵は森が与えてくれた。諏訪湖も現在より倍以上大きかった。湖では、主食の木の実のあく抜きが行われた。人は木遣の声に力を合わせて、ただただ木を曳くことで結束を高めてきた。七年ごとに小宮を含めて、数千本の柱を建ててきた。諏訪人は一つのことにとこだわり、集中する志向力が強く、経済活動の面でも独立独歩の精神が旺盛といわれる。しかし御柱では、一致団結する。また人口浮動率が高いにもかかわらず、外来者も七年目ごとに開催される御柱祭に参加すると、諏訪の伝統社会の中に同化されてしまう独特な精神風土がいまも続いている。

三代目の半田会長が、本会の特色として「山村の生活と文化を守る」を掲げられた。これに関連して、長野県最北部栄村の高橋彦芳村長からお聴きしたことをお伝えしたい。「農林業というのは、どんなに小さくても守っていかなくてはならないし、また農林業を離れて中山間地に暮らす理由はない。人間は誰でも生まれた地域から、自然や文化を刻みながら育っていく。それは量的にも多量で、質的にも薄っぺらでなく深い。文明が進んで地域が等質化、情報が広く伝わるようになると何でも知っているようだが、それはとても薄っぺらで人生の血となり肉となるようなものではない」と。

初代の隅谷会長は、府立第一中学時代に国木田独歩の「山林に自由存す」に心惹かれた。日曜日の午後ひとりで武蔵野をさまよひ、農村の小学校の先生になることを夢見たという（『激動の時代を生きて』六頁）。同じく府立一中の学友会雑誌に、「愛する祖国の危機には重い十字架を背負うものにして下さい」と英文で記した。隅谷会長の遺髪を継いだわたくしたちは、「愛する国民森林の危機」にどのような覚悟と行動を、次代につなげばよいであろうか。

わたしは学恩から国民森林会議に加えていただき、林住期まで樹恩ともいえるご厚情を先輩各位よりいただいた。幸い、諏訪では御柱のご用材を植林して下草を刈って、二百年後に備えている。現在も、秋の小宮祭は子どもたちの晴れ舞台だ。森の恵とともに生きてきた諏訪。風土の期待にしたがって、その日その日をこれからも善処したいと思う。

注；諏訪大社上社の御柱に用いられるモミの木8本は、御小屋山から調達されますが、昭和34年の伊勢湾台風により多くのモミの木が倒木してしまい、御小屋山の調達は1992年以來30年ぶりでした。

理事会報告

第 159 回 日時：令和 6 年（2024）1 月 21 日（日）午前 10 時 00 分～ 場所：スマートレイク事務所
出席者：沖野 金子 宮原 長崎(政) 井上 市川 鴨志田 山村 田辺 高木(10 人)

- 1) 諏訪湖クラブニュース 38 号配布 12p 160 冊
- 2) 国際ソロプチミスト諏訪「湖畔公園の鐘カリヨン」の名称募集
- 3) 元気づくり支援金 冊子「諏訪湖の水生植物」「治水に繋がる釜口水門」を配布
- 4) 諏訪湖創生ビジョン（諏訪湖案内人 WG の経過報告）
- 5) 諏訪湖創生ビジョン推進会議総会 3 月 6 日（水）下諏訪町文化センター
- 6) 自治体連携について 湖沼会議 宍道湖・中海（井上監事報告）
- 7) 漁業振興を検討する会（1 月 11 日開催）沖野、高木、山村、八幡参加
持続可能な漁業 諏訪湖業組合 会員 542 人 出荷 7 人 投網 5 人
藤森漁業組合長に令和 6 年度元気づくり支援金、冊子「諏訪湖の魚介類」作成協力依頼

第 160 回 日時：令和 6 年（2024）2 月 19 日（日）午前 10 時 00 分～ 場所：スマートレイク事務所
出席者：沖野 宮原 長崎(政) 金子 高木 八幡 宮坂 田代 鴨志田 山村（9 人）

- 1) 今後の予定
3/5（火）諏訪市四賀小学校赤羽素乃校長に冊子「水の学習」贈呈
3/6（水）諏訪湖創生ビジョン総会 午後 1 時～下諏訪町文化センター
- 2) 諏訪湖クラブ総会
6 月 2 日（日）同日に 諏訪地域一斉水質調査
- 3) 令和 6 年度元気づくり支援金 最終年度 731,780 円 支援金 585,000 円
①諏訪湖の魚介類 ②諏訪の大地誕生 ③諏訪湖は鳥の宝庫 ④蚕糸業とカイコの生態

第 161 回 日時：令和 6 年（2024 年）3 月 17 日（日）午前 10 時 00 分～ 場所：スマートレイク事務所
出席者：沖野 長崎(政) 金子 井上 高木 八幡 市川 宮坂 田代 山村 鴨志田 田辺（12 人）

- 1) 3/6 創生ビジョン推進会議総会 令和 5 年度各 WG などの取り組みの報告があった
沖野会長の指示で司会・記録係を事前に決めよかった。
今回は 5 月 28 日（火）午後 新しい諏訪湖環境研究センター（横河川河口）
- 2) 令和 5 年度元気づくり支援金事業
水の学習「水はどこから来てどこに行くのか」編集;田代幸雄 配布 A4 カラー16 ページ
3 月 7 日（木）に地域振興局に「諏訪湖に学ぶ」実績報告書提出 協働作業が評価された。
紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」 絵手紙の会「福の会」
水の学習「水はどこから来てどこに行くのか」GKP、諏訪市立四賀小学校
- 3) 全国一斉水質調査について「まとめ」をつくりたい
- 4) 自治体連携について 39 号諏訪湖クラブニュースに寄稿（井上監事）
長野県環境部では世界湖沼会議を 5 年以内に諏訪湖で開催したいと考えている
- 5) 桜のお花見会 4 月 13 日（土）11 時～ 鴨池川エナジーパーク
- 6) 信毎賞推薦書提出 沖野外輝夫会長を推薦
- 7) 諏訪湖しゅんせつ WG 現地学習会
諏訪建設事務所の大郷さんをお願いした
・治水のために夏期制限水位を設けていることを明示したい。
・バックホウ掘削よりクラムシェル掘削の方が深度管理しやすいし効率が良い。

令和 6 年度総会の予定です
令和 6 年 6 月 2 日（日）午後 3 時～
場所 諏訪市駅前「すわチャオ会議室 1 号」
懇親会 午後 5 時 15 分 「雫石」
出席の有無 〆切 5 月 25 日（土）高木保夫
まで 電話 090-4152-1871

企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局
TEL/FAX 0266-58-0490
E-mail e-suwa-info@lake.gr.jp
<https://suwako-club.com/about.html>
諏訪湖クラブニュース

No. 39 令和 6 年（2024 年）4 月